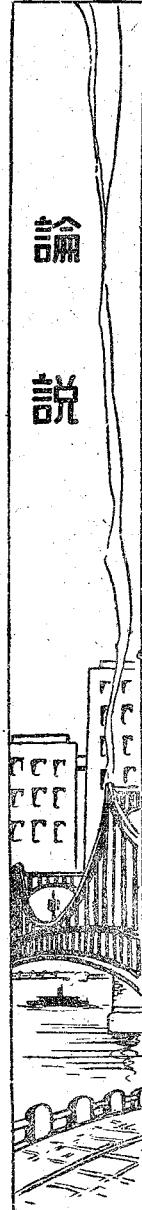


論 説

# 企画性ある交通機關の充實について

島 田 孝 一



大東亜共榮圏の完全なる發展を圖らうとすれば、我國としては軍事上のみならず政治上外交上等にも極めて堅固な基礎を確立するは何を描いても行はなければならない處であるが、更に經濟上の工作が如何に重要な地位を占めるかもまた同様にして充分な認識が與へられ、これに關聯しても慎重な取扱が要請されるのは今更ながら贅言を要するわけではない、戦鬪行爲が繼續する限りでは、軍事上の活動が寸毫の間隙もないやうに遂行されて然るべきは勿論であるが、戰後の工作にはまた自ら異つたものが行はれるのを免れない。顧みれば昭和十二年七月に支那事變が發生して以來現在までに満五ヶ年、昭和十六年末に大東亜戦争が勃發してこの方六ヶ月の時間的經過をみたが、この間陸に海に行くとして可ならざ

るなき皇軍の活動は、東亞の最重要地點の殆ど全部を完全に我國の支配下に置くを得せしめたのであり、これは眞に驚異に價する軍事的進出であつて、かかる短期間にこれ程の戦果をあげた實例は、恐らく世界の歴史に全くその比を發見することは出來ないと信ずる。吾々は右の如き皇軍將兵が齋らした功績に對して、衷心からの感謝を捧げなければならぬが、それがためにはかかる戦鬪行爲が完全に終末を告げた曉に於ける建設事業を如何に巧妙に處理するかについても、充分なる用意をとゝへ、計畫を樹てる必要を痛感するのである。換言すれば軍事、政治、外交等の諸對策と全く併行して經濟上の對策を今日から周到に検討を加へるのが肝要であると認めるのであつて、もしこの點につき不徹底な態度をとるとすれば、折角の軍事上の成功を水泡に歸せしめないと共に、もしかゝる失敗が演ぜられるとすれば、祖國を熱愛しつゝ戰場の華と散つた日本の青年諸君に對して、眞に申譯のない結果になると思ふ。而して大東亞共榮圈の建設と發展とに關聯して考慮を用ふべき經濟上の對策は極めて多岐複雜に亘るのは當然のことであるが、こゝには我國として採用すべき交通對策の一部について若干の考察を加へてみたい。

## II

凡そ近代的國家として最高度の發展を試みようとする場合には、經濟的及非經濟的條件の極めて多くを備へる必要があるのは言ふまでもない處であつて、かかる諸條件を缺くにも拘らずたゞ偶然に強力なる國家が出現することは到底考へることが出來ないのである。而も經濟的條件の中で殊に重要視されて然るべきは、豊富潤澤なる資源に恵まると言ふことである。これなくして徒に強大なる地位にあると自負するのは、あまりに危險な状態にあると言ふを得べく、これこそ近代的

強國として存在のために不可缺の一條件であると信ずることが出来るのである。尤も筆者はかく斷定すると雖も、決して近代的國家の發展のために國民としての精神的方面の強靭性が缺けてゐても差支ないとするわけではない。これまた同様にして飽くまで尊重して然るべきは當然のことではあるが、たゞ物質的文化の向上に關する一條件として、潤澤なる資源の支配が如何に重要であるかを忘れてはならないのを指摘するのみである。

然るに事實問題として資源の分布狀態を觀察するに、常に人類の容易なる利用を俟つが如く、極めて獲得し易い場所に存在すると限つてはゐない。かかる資源はある場合には非常に遠隔なる地域に發見されるために、ある場合には多くの地域に分散して存在するために、これ等に對してあるひは接近し、あるひは獲得するのが必ずしも容易の業ではなく、寧ろ、著しい苦痛と困難とを伴ふ機會さへないとは言へないのである。而してもし國內に豊富なる資源が發見されないとすれば、近代國家としては勢ひ海外資源の獲得を策するのは當然のことになるのであつて、過去に於ける歴史上の事實としても、如何に多くの國家が植民地あるひは屬領の支配と經營とに熱心であつたかを發見するのは決して難事ではない。而してかかる場合には、資源の分散は一層廣い地理的範圍の中に行はれるのを普通とするから、従つて原產地と消費地との聯絡のためには、極めて重要な物資の移動の問題が發生して來ると共に、かかる移轉あるひは交流に關して缺くべからざる交通機關の充實が極度の重要性を保つことになるのである。但し國內的資源の開發と、國際的資源の支配との双方が歩調を合せて行はれるためには、利用される交通機關の種類の如きは、必ずしも同一であつて満足の意を表することは出來ないのである。前者には主として陸運機關が用ひられ、後者には何と言つても海運機關が利用されるのを普通とするのである。

過去久しきに亘る人類の歴史を通じて考察を加へてみても、高度に發達した交通機關が用ひられるに至つたのは、比較的近年の事情に過ぎないのであつて、往時は勿論各種の移轉の必要も生じ、またこれに應ずる各種の移轉の方法も考察されてゐたのではあるが、それ等はいづれも原始的にして且幼稚なる内容を備へるにとどまつてゐたのである。換言すれば極めて完全な程度の機械力の作用の下に物資の移轉が圖り得るに至つたのは、全く現代を迎へた後の有様であると斷定し得るのである。これ等の發達した交通機關を用ふることにより、始めて海陸空の如何なる距離をも征服する事が可能となり容易となつたのである。かく觀察を進める以上は、近代國家の發展を圖る一つの礎石として、如何に交通機關の完備と充實とが重要な地位を占めてゐることが出來ると思ふ。

大東亜戦争に於けい大捷の結果として、我國の支配下に置かれるに至つた南方諸地域は極めて廣大であり、且これ等の各地は比較的潤澤なる自然の資源に恵まれてゐるから、かゝる資源を我國が指導者たる立場を保ちながら完全に開發し、以て廣く世界に於ける人類の福利の程度を最高水準に引上げるべく努めるのは、吾々として懷くべき理想としては當然のことではあるが、さてそれがためには一つの特殊の対策が要求されるのである。即ちこの圈内は大陸と多數の島嶼とから成立してゐる關係上、完全な物資の交流を欲するとすれば、勢ひ量的に餘裕があり、且質的に充實せる各種交通機關を用ふるにあらざれば、この目的を果すことは出來ないのである。即ち大陸及島嶼の内部に於ける物質の移轉のためには、各種の陸運機關の完備が必要となるのは勿論であり、これと同時に大陸と島嶼、または島嶼相互間の聯絡のためには、中間に海洋を距てゝゐると言ふ事實からして、各種の海運機關の充實が免れなくなるのは當然のことである。

大東亜戦争の開始以來我國に於ては遠に船舶増強に關する対策が多くものによつて叫ばれるに至り、また事實上もこ

れに關する各種の具體的施設が講ぜられてゐるのは、決して偶然なる事情ではなく、寧ろ當然かくあつて然るべしと認めたいのであるが、たゞ吾々はこの機會に於ても漫然と船舶の増加のみに熱中してはならないのを充分に心にとめて置きたくと思ふのである。即ち船舶の增强に關しても徒に龐大な机上の計畫を樹立し、思慮を缺きたる進路を求めるならば、我國の發展に對して一種の障礙となるとしても、利益を齎らすのは容易の業ではないであらう。殊にあまりに船舶の增强に關してのみ心を奪はれて、他の種類の交通機關の完備と充實とを忘れるに至るならば、大東亜共榮圈内に於ても決して理想的な交通狀態を維持することは出來なくなるであらう。萬が一にもかゝる跛行的狀態に到達したとすれば、吾々は最も悲しまるべき事情に直面したと言はざるべからざることになるのであるから、大東亜共榮圈内に於ける交通對策としては、最も圓滿にして最も慎重なる考慮の結果を有するものを立案し、實施するのが理想に近い態度であるのを信じて疑はないのである。昭和十七年五月二十九、三十日の兩日に亘り、帝都に於て第一回東亜道路技術會議が開催され、共榮圈内各地の代表者が一堂に會して、現在並びに將來に於ける道路問題につき忌憚なき意見の交換と、徹底せる研究の發表を行つた事實をみると出来るのは、國論があまりに海運問題に拘はれ過ぎてゐるのではないかと認める際には、殊の外に我が意を強くするに足りる出来事であつた。

### 三

それは兎も角としても、近代的國家が海陸空の各種の交通機關に依存する程度は頗る高いものがあり、假りにこれを國家の經濟的發展に關聯する部分のみに限つてみても、輕々に看過するのは許されないのである。殊に陸上に於ける稍短距

離にして且小量の移轉に關しては自動車は全く缺くことの出來ない存在であり、また延いてはかかる車輛を完全に通過せしめ得べき完備せる道路がなければならないことになるのである。従つてもし近代國家としてこの點に異常なる關心を懷く以上は常に必ず全國的且綜合的計畫を根柢とする整然たる道路施設の完成を心がけなければならない筈であり、自動車がこの種の道路上を走行する限りに於ては高速度の運轉はいつも保證されるのみならず、更に安全と快適との程度もあくまで高く維持されるのを望みたいのである。

自動車交通に關聯して極度に發達せる優秀なる道路を建設すべき計畫は、希はくは全國的計畫として中央政府の責任の下に樹立され遂行されるのが望ましいのであつて、もしさまりに多數の地方的主體がこの種の問題の處理にあたることになるならば、全國的に統一した結果に到達するのは至難の業となるのである。而して右の如き中央組織は恒久的性質を帶ばしめ、決して一時的の思ひつきによつて道路に關する施設の進むべき方向を定めるが如き粗放な態度を示してはならない筈である。就中かかる組織の中には、必ず一方に於ては技術に關聯する研究機關を、他の一方に於ては經營に關聯する研究機關との双方を含ましめ、これ等兩者の協調によつて基本的計畫を樹てたる後にこれを實行に移すやう圖るのは、最も大切な事柄である。それがためには純粹なる科學的立場から觀察して必要と認められるあらゆる技術上の材料を蒐集し、これを分解、解剖して、而もその上に道路經營と言ふ經濟上の觀點からする再検討をこれに加へ、總ての點についての考察を行つた後、始めて將來に對する道路建設の方針と態度とを決定するのが可能ともなり安全ともなるのである。而も右の如き計畫は、必ずしも現代の社會に於ける交通需要を充足せしめるに終る程度にとどまるよりは、寧ろ進展してやむことなき社會の發達と交通需要の強度の増加とを考慮の中に入れて、將來の社會に於て生じ得ると推定せらるべき大なる

交通需要をも充足し得るが如く、稍大規模の計畫たらしめて置くのが望ましいと確信されるのである。何となれば、あらゆる意味に於て發達してやむことなき文化國の社會に於て、交通施設の建設の程度を定める必要を感じた時に、もし現代の交通需要の強度のみを標準にして工事を進めるならば、久しうからざる將來の時期に於て、必ず何等かの行き詰りを感じるのはやむを得ざる事情となるであらうし、而もかかる機會を迎へる毎に、再び三度計畫を改め、施設の内容に變更を加へて充實した程度まで引き上げようとするのは、時間と労力と費用との浪費を意味するからである。

自動車交通に適切なるが如き完備した道路を建設するためには、右の如く極めて多くの注意を拂ふのを要するのは免れない處となるのであるから、全國的範圍に及ぶ高級なる道路網の完成は、決して簡単な仕事でもなければ、容易な作業でもなく、また従つて短い時間の中に成就し得る事業ではあり得ない。また理想は全國的に、ありとあらゆる地方に最も完備した道路を建設し維持するにあるのは勿論であるとしても、それ等のことごとくを同時に着手し得るとも考へられない。事實上は極めて慎重な研究と、長時間と、巨額の費用との三者を用ひて、而も順次に着手し完成されるべき難事業であるのを疑ふことは出來ないのである。然しながらかく言へばとてこの種の事業は決して實行が不可能であるわけでもなければ、單なる空想的な計畫であり、机上の空論であるわけでもなく、もし現在並びに將來の社會に於ける道路を中心とする交通の理想化を希ひ、且これがために必要な總ての準備と構想と用ひてそれが解決にあたるならば、たしかに最後の段階に到達することは可能であると信ずることが出来るのである。假りに道路事業以外の各種の交通事業に於て示された實情を觀察してみても事業に著手した最初の時代にはいづれも茫洋の感を懷いたのは事實であつて、果していづれの日に全國的に完備した交通機關を建設したことが出来るであらうかと疑つたのは殆どみな軌を同じうしてゐると言つて差

支なく、鐵道事業の如き陸運事業に於ても、電信、電話の如き通信事業に於ても、殆ど同様なる有様が示されてゐたのである。道路事業はこれを歴史的に考察するならば、世界のいづれの國に於ても比較的に遠い昔から考慮が加へられてゐたから、二十世紀の現代に於てはそれが内容は一先づ極度の發達を終つてゐるとみられないわけではない筈であるが、然しそこには思ひもかけない新しい事情が突如として發生してゐるもの観過することは出來ないのである。それは言ふまでもなく陸運機關としての自動車の發展であつた。而して十九世紀までの時代に一應完備された道路の内容は必ずしも貧弱にして劣等なるものではなかつたのであるが、別に新しく道路に依頼し、且道路施設の内容の充實を要求してやまない自動車なる交通機關が發達し來つた以上は、これが交通を完全に包容し得る施設がなければならぬのは、あまりにも當然の次第となつたのである。こゝに道路施設に關聯しての再吟味が要請されるに至つたと見るべきである。而もこのことは一見如何にも難解な課題のやうな感じを與へないわけではないかも知れないが先にも一言觸れたやうに、技術と經營との兩方面よりする慎重な取扱を進めるならば、決して不可能に終るわけではないのを確信するのである。

## 四

近代社會が要求するが如き完備した道路を建設すると言ふことになれば、それに關聯して極めて爲岐に亘る派生的諸問題が發生して來るのは當然である。筆者はその中の一二について平素の主張の一端を附記して置きたいと思ふ。

既に述べたやうに道路建設の計畫は、一國全體の狀態をあくまで考慮の中に入れて進めるのが望ましいのである。然るに人々の集中と社會のあるひは經濟的活動の旺盛とがあらはれてゐる都市と都市との聯絡のために道路を改善する努力は

屢々生ずる處である。筆者がみる處では、かかる都市間の道路は從來からも比較的充實した内容を備へてゐるのではあるから、更にこれをこれ以上の程度まで充實させる必要がどれ程深刻であらうか。それよりは寧ろ過去に於て殆ど顧みられる程度の歎かつた地域の道路の改善のために新しい努力をなし、かくして全國的に道路状態の均衡を促進するのが賢明な策ではなからうかとも考へられるのである。

尤もこの主張には必ず反対説も伴はれるかも知れない。何となれば由來都市は人類の各種活動の中心的地域として發達し來つたものであつて、こゝをとりまして貨客の移轉は高調を示し、従つてより充實した交通機關を要求する程度が高まり來つたために道路状態の改善に関する努力が一層重要視されるに至つたとすることは一應可能である。然し凡そ一國全體の道路状態の改善を考慮する場合に、ある一地域の事情にのみとらはれて、全體の組み立ての順調を破るが如きは決して好ましいことではないのを心に銘記した上でこの問題の取扱上の態度を決定するのが望ましいのである。

また交通施設の充實に關する計畫は、獨り決して道路のみに限られるわけではないが、出來得る限り早期から、且全國的の廣範圍に亘り行ふのを以て理想に近いものとしたいのである。交通施設の充實にあたつて、社會的交通需要の程度を基礎にして、建設なり改善なりを行ふのは、少しもあやまつた態度ではなく、寧ろ至極賢明にして適切な取扱であるが、たゞその場合にあまりに現在にとらはれ過ぎて、將來に於ける情勢の變化を全然考慮外に置くのは、決してよろこばしいわけではないと思ふ。然しこの主張の本質は、言はゞ現在未だあらはれてゐない交通需要をも考慮しながら、交通施設の充實を先行せしめようとするのに外ならないから、幾分かは危險性を伴ふのを免れるわけではない。たゞ社會に於ける交通施設があくまで他動的役割を演じて、これによつて社會の發達を促進せしめるが如き觀をすら呈するやうであるが、眞

實の事情としては必ずしもさうではなく、たゞ交通施設の充實の程度を將來に於ける社會的交通需要の發達の有様に對して歩調を合はさせようとするに過ぎないのである。従つてこゝに注意を加ふべき問題としては、將來の事情の變遷を出來得る限り正確に把握するのが大切であると言ふ一事である。即ち交通施設の充實に關する程度を最初に決定すると言ふものゝ、その程度あるひは規模の如きは、たゞ思ふがまゝに杜撰に決定するのは到底許すべからざることになるのであり、

現在の立場に於て觀察し得る交通需要を將來の時代に向つてもまだ擴大し、殊に將來生ずるやも圖り難い潛在的交通需要を正確に測定して、その上に誤なきやう計畫に基く建設と維持とを圖るのが最も望ましいのである。(一七・六・一七)

